

「市長と一緒にティータイム」対話概要

団体名	特定非営利活動法人ガウラ未来サポート
実施日時	令和7年10月24日（金）午後2時～3時30分
実施場所	市役所第一応接室
出席者	ガウラ未来サポート 9名 市 3名
テーマ	子どもの居場所づくりと空き家等の再利用について

意見交換

未来：2018年の9月からこども食堂を始め、現在は月に1回、市民交流センターで開催しています。こども食堂を運営していくうちに、こども食堂の参加費300円を支払えない方がいることを知りました。そのような方々はひとり親家庭であることが多いため、月に一度、ひとり親家庭だけを集めた夕食会を行っています。また、わくわく広場から売れ残った野菜をいただいたり、コストコから商品をいただいたりしています。中学生くらいになり、こども食堂になかなか行けなくなるといったご家庭に対しては、提供いただいた商品を届けるアウトリーチ活動も行っています。法人化してからは、社会的養護を必要とした子が20歳になったときに、振袖を着られないという課題があります。若者の支援として、無償で振袖を着付けし、写真を撮ってプレゼントする事業も行っています。

市長：全国各地でこども食堂への取組が進められる中での開始を、まるで昨日のことのように覚えています。今年2月には市の広報でも取材させていただきましたが、改めていかがですか。

未来：こども食堂を始めてから8年が過ぎましたが、あっという間でした。始めた当時、市内にこども食堂はありませんでしたが今では増えました。



市長：皆さんのが取り組んでいる活動に賛同する方が、各地で活動を始めているのだと思います。

未来：私は、地域の方に何かしたいと思い参加しました。心に寄り添って温かさを伝えたいです。

未来：私は、児童養護施設と児童家庭センターを経営しており、こども食堂の存在を知っておく必要があると考え参加しました。貧困の問題や母子家庭の問題、障がいなど、社会には様々な問題がありますが、こども食堂は、その問題を横のつながりでつなぎ止めてくれていると感じます。

市長：こども食堂は、何人くらいで活動されていますか？

未来：20人前後ですが、他に袖ヶ浦高校の生徒が毎回10人ほど参加してくれます。

市長：袖ヶ浦高校の生徒は、市の行事への協力や、図書館の読み聞かせもしてくれています。こども食堂の皆さんと一緒に活動することは、学生にとってプラスになると思います。

未来：袖ヶ浦高校の生徒たちは、本当によく手伝ってくれます。

未来：企業やロータリークラブ、ライオンズクラブの方々からご寄付をいただき、ポップコーンの製造器具などを買うことができますので、毎回賑やかに開催しています。



未来：地元の方たちから旬の野菜などをいただいき利用しています。

市長：地元の旬の野菜を食べる経験は貴重です。

未来：メニューを決める際には、旬のものを提供するよう心がけています。地元の方など協力してくれる方がいるのでできることです。

市長：8年も活動を続けているので、協力の輪ができているのだと思います。

未来：市が補助金を出してくれるので助かっています。近隣市ではありません。

未来：調理室で調理をして2階や3階に運ぶのは重くて大変ですので、厨房で調理はできますでしょうか。

市長：厨房は、レストランが撤退して以降、水道は使えますが、ガスは使えませんので調理は難しいです。

未来：市民交流センターは建物が古く、雨漏りをしているところがあります。

市長：公共施設は老朽化しているところもあり、順に対応しています。今年度は避難所となっている平川公民館の体育室を修理しました。

未来：お米の関係で、田んぼを見ると稲刈りの後に穂が出ていますが、収穫して利用したらどうですか。

市長：本市の稲作は全国に比べて早い時期に田植えをして、早く刈り取るという特徴があります。2回目の収穫は土壌の肥料などの関係で難しく、品質の良いお米にならない可能性があります。本市では、ほ場整備を進めており、田んぼを大きく整え、大型機械を使用して効率的に稲作ができるようにしています。袖ヶ浦市の給食では市内産のお米を使うなど、お米も野菜も安定して供給されていますので、今後も、農家の方が安心して農業を続けられるようにしていきたいと考えています。

未来：学校給食のお米は袖ヶ浦市産とのことですが、野菜はどうですか。

市長：野菜は旬があるため、市内産野菜の使用割合は年間で平均すると4割程度ですが、8割程度となる時期もあります。今後も使用割合を上げていきたいと思います。

未来：木更津市では、学級閉鎖等の理由で余った給食用の野菜などをこども食堂に提供していますが、袖ヶ浦市ではどうですか。



市長：袖ヶ浦市では給食センターで一度に大人数分の調理を行うため、多少の余りは使用してしまいます。

未来：吉野田保育所や中川幼稚園の閉鎖後は、どのように活用するのですか。

市長：吉野田保育所は耐震性に問題があるため取り壊し、更地にした後の活用は今

後検討します。また、中川幼稚園は教育の用途で使うものですので、その後の活用は教育委員会で検討します。

未来：吉野田保育所にあった調理器具はどうなりましたか。

市長：他の保育所で利用しています。税金で購入しているものなので、使える限り大切に使います。

未来：中川幼稚園は、子どもや引きこもりの人たちの居場所としたら良いと思います。

市長：子どもの居場所は必要だと考えており、長浦交流センターの自習スペースや市民交流センターのフリースペース、南庁舎の市民交流広場を利用できるようにしています。

未来：不登校の生徒が増えていると聞きましたので、その子にとって安全な居場所を作りたいと思います。

市長：不登校者の増加の背景には、無理に学校に行かなくてもいいという不登校に対する社会全体の意識の変化があります。不登校の理由は様々で、総合教育センターののぞみ学級や各学校のサポートルームで個に合わせた支援を行っています。また小中学校の特別支援学級数は、個の状態に対応した学級を設置することから増加しています。お子さんにとって一番いいことは何かを考えて支援する必要があります。



未来：子どもの居場所づくりなど、何か活動したいと考えても、活動する場所がありません。公共施設や空き家などどこかないのでしょうか。

市長：公共施設は用途がありますので、専用に貸すことは困難です。管理されていない空き家では皆さんの安全が確保できません。

未来：食材を段ボール箱入れて宅配便で送る「宅食」を行っていますが、食材の置き場にも困っている状況です。社会福祉協議会に相談したところ、企業と協力したらどうかと言われました。

市長：企業も常設の施設を提供することは難しいかもしれません、企業との協力はよい考えです。

未来：最近の子どもはバーチャルの世界で遊ぶことが多く、「痛み」に鈍感であると言われており、プレーパークの必要性を強く感じています。

市長：痛みを知るのは重要なことですが、保護者が守り過ぎている部分があると思います。成長に合わせた経験をさせることは必要で、どこまで守るのかを考える必要があります。市でプレーパークを作ることは困難ですが、必要性は理解していますので、始めようとする方がいればご相談いただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。